

2. 事例から見る良好な対策について

1) 臭気発生の特徴

畜産農業においては畜舎と堆肥舎と2つの臭気発生源があります。

畜舎から発生する臭気はふん尿に由来するものが多いため、毎日の清掃など基本的な衛生管理が重要になります。

また、ふん尿を処理する堆肥舎については、密閉縦型発酵装置を使用している事例や、重機又は攪拌機械で切り返して空気を供給し、堆積発酵させている事例があります。いずれの方法でも発酵初期のガスは硫黄化合物やアンモニアなどの悪臭物質の濃度が高くなることから、切り返し作業時の臭気には特に注意が必要です。

2) 酪農家の臭気対策事例

牛舎構造をフリーバーンにして大量のコーヒークラカ等の敷料で臭気の質を変化させる事例(A1)やフリーストール式でおがこや戻し堆肥を敷料にする事例(A2、A3、A4)があります。つなぎ飼いで古紙敷料によって臭気を吸収する事例(A5)もあります。また飼料を改良しふん尿の臭気発生を抑制する事例(A1、A3、A5)や堆肥化装置や香料噴霧などの対策事例(A2、A3、A5)もあります。

3) 養豚農家の臭気対策事例

豚舎構造を全面すのこにして1日2回以上床下のスクレーパーでふん尿を掻き出す事例(B1、B2)や、一部すのこ豚舎で床下と土間のふん尿を1日1回以上清掃する事例(B3、B4)、十分な敷料を入れて吸収させる事例(B5)があります。飼料でふん尿の臭気を軽減する事例(B3、B4)もあります。またハード面の対策として、豚舎内でのオゾン脱臭事例(B1、B3)や生物脱臭事例(B2)や豚舎配置と植栽で希釈する事例(B4)もあります。

4) 養鶏(採卵鶏)の臭気対策事例

採卵鶏については、ウィンドレス鶏舎(C1、C2)では臭気発生源となるふんをベルトコンベアで搬出することが鶏舎内の臭気対策となりますが、平飼いでは逆に鶏糞は敷料に吸収させて分解する事例(C3、C4、C5)があります。また飼料についても腸内環境を改善する事例(C3)があります。ハード面の対策として鶏舎内のミスト噴霧事例(C1)や堆肥化工程の専任担当者をつける事例(C1、C2)も臭気対策につながります。